Phonak
Fast Facts

ハウリング閾値のオーバーチューニング

オーバーチューニングとは

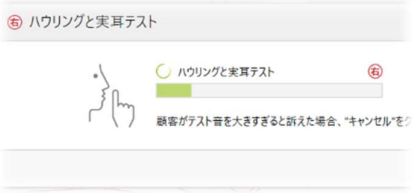
これまで、ハウリングテスト未実施時の利得は推定ハウリング閾値以下に制限されていました。
ハウリング閾値のオーバーチューニングにより、ハウリングテストを実施できない場合でも高音域の利得をさらに拡張することができます。

通常は可能な限りハウリングテストを実行することを推奨しますが、以下の状況では、オーバーチューニングが役に立つことがあります。

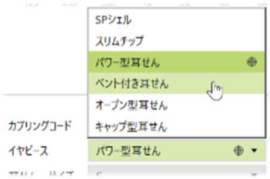
- ハウリングテストを行えない場合
- テストを行った後に、高音域の利得をさらに上げる必要がある場合

使用方法

① 可能であればハウリングテストを行います。



② ハウリングテストの結果、必要であれば音響パラメータを見直し再度ハウリングテストを実施します。
- オーバーチューニングは、閉塞された耳せんによるフィードバック制御に代わるものではありません。



③ 必要に応じて、「ハウリングと実耳テスト」画面でオーバーチューニング*を行います。

④ 音質を確認します。

＊ステップ ③ に関する重要な注意事項:

- 最大 12 dB の拡張が可能ですが、オーバーチューニングは +5 dB 以内に抑えることを推奨します。
  - ハウリングリスク、音質および電池寿命を維持するためです。
  - オーバーチューニングが 5 dB を超えると、Phonak Target 上に警告が現れます。
- オーバーチューニング可能なステップ数は、補聴器および音響パラメータにより異なります。
- オーバーチューニングのステップ数は、追加の利得 (dB)を表すものではありません。

© 2020 Sonova AG All rights reserved